

平成26年第1回清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会 議事録

日時：平成26年7月17日（木）

13：28～16：20

場所：岐阜県庁 4階 特別会議室

1 開会

[司会（森 恵みの森づくり推進課総括管理監）]

それでは時間前ではございますが、みなさんお揃いですので、ただ今から会議を開催いたします。

本日は、「清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会」の開催にあたり、ご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、まず、林政部長よりご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

[瀬上 林政部長]

（あいさつ） ～略～

[司会]

ありがとうございます。

本日は、報道関係者の方から撮影の申し出がありましたので撮影について、皆様のご了承いただきたいと思いますよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、続きましては、本審議会の会長であります、小見山様からご挨拶をお願いいたします。

[小見山 会長]

みなさん、こんにちは、大変暑い中、お忙しいところお集まりいただき、環境というのは、大変我々にとって大切な要素である森林ですが、今、森林は長い歴史によって弱い状態を、税金を投入して何とか強くするのが目的で、それに対して第三者として申し上げるのが我々の役目でございます。今までやってきたことが粛々と進んでいるか、3年目に入りましたが、我々の意識としてこえなければいけない要素があります。量的な評価をおこなってきましたが、どういうことが行われてきたかという質的な評価を視点として、第三者委員会として入れていかなければいけないということが1点です。もう1点は、森林・自然の問題に、臨機応変、緊急の課題が入ってくると思う。そういうことに対して、この委員会はどう対応していくのか、これも我々委員としては、考えていかなければならないという2点が加わるということですのでよろしくお願いします。

[司会]

ありがとうございました。

本来でありますと、委員の皆様方のご紹介ということになりますますが、時間の都合もありまして、事務局の者も含めまして、お手元の出席者名簿のとおりとさせていただきます。

なお、山岡委員におかれましては、急きょご欠席ということでございますので、よろしくお願ひします。

私は、本日、司会を務めさせていただきます、恵みの森づくり推進課の森と申します。

本日は、平成25年度事業の評価をお願いいたします。

また、その後、報告事項としまして、平成26年度の主な事業の進捗状況についてご報告させていただきます。

それでは、この後の会議の進行につきましては、小見山会長をお願いしたいと思います。

よろしくお願ひします。

3 議 事

平成25年度森林・環境基金事業の評価の実施について

[小見山 会長]

それでは、只今から、議事を進めます。平成25年度森林・環境基金事業の評価ですが、評価の進め方について確認させていただきます。

資料1をご覧ください。資料1の1から4に区分ごとに事業名が分けてあります。この区分ごとに、事務局から説明をしていただいた後、その都度、委員からご意見を頂きたいと思ひます。説明と意見の時間は半々で、すべての説明、意見を終えるのに最低でも2時間半程度掛かることとなりますので、議事進行にご協力いただきたいと思います。

大変、分厚い内容になりますので、本日、会議の場で、全部意見をまとめるというのは不可能ですので、委員の意見を集約しまして、その評価の結果については、後日、事務局と私の方で確認しまして、委員各位へ了解をもらいたいと思ひますが、皆さん、いかがでしょうか。

(委員了解)

それでは、事業評価を進めてまいります。

では、事務局から説明願ひます。

[説明1 (平井 恵みの森づくり推進課長)]

(資料1により、環境保全林整備事業、水源林公有林化支援事業、里山林整備事業、環境保全モデル林整備事業、木の香る快適な教育施設等整備事業、ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業、ぎふの木育教材導入支援事業、県民協働による未利用材の搬出促進事業、森と木と水の環境教育推進事業、清流の国ぎふ地域活動支援事業、清流の国ぎふ市町村提案事業の13事業を説明)

～略～

[小見山 会長]

ありがとうございました。

では、どなたからでも、どの事業からでも結構ですので、評価・意見をお願いします。

●環境保全林整備事業について

[笠井 委員]

・国費が約2億付いたという説明がありました。整備面積は結果的に2,181haになっていますが、国の予算で残りの箇所を整備したという理解で良いですか。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・国予算も含めて6億円ありましたが、国費分も含めてできなかったということです。
・事業費欄を見ていただきますと、森林環境税で2億1千7百万円、国費で1億7千5百万円、国の予算も、環境税の予算も使えなかった。それは、労働力が不足していたということと、境界が確定するのに大変手間のかかる奥地が多かったということです。

[笠井 委員]

・結果的に予算ベースでは2億円位未消化になりますが、そうしたものをどう活かすつもりですか。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・その分については、平成26年度からの3ヶ年に割り振っています。平成26年度の計画は3,000haでなく、3,300ha。できなかった分は、次年度以降に面積が積み上がります。平成26年度3,300haの計画に対して、ほぼ計画どおりの要望がきています。

[小見山 会長]

・税のかなり大きな目的になっており、ここが今までできないから森林が悪くなる。それを食い止めるということ。今、説明のあった労働力が足りない。林業できちんと間伐をできる人の数が限られているところに国が入ってきた。来年度は大丈夫？

[岩月 森林整備課長]

・平成25年度につきましては、大型の補正ということで、限定的なものと思っています。
・平成26年度については3,300ha 予定しているところ、98%ほどの要望がありますので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

[小見山 会長]

・この事業はちょっと大事ですので、今しばらく検討してまいりたいと思いますがどうですか。

[所 委員]

・5年間で15,000haの予定ですけど、1年目、2年目と実績が低いですが、トータル5年間の計画変更は考えているのですか。

[岩月 森林整備課長]

・平成24年度、25年度、26年度の見込みを含めると7,000haになります。全期計画は15,000haになりますので、残り8,000haを平成27年度、28年度でしっかり取り組んでいきたいと思っています。

[徳地 委員]

・どこでも森林所有者の境界確定の問題がすごく大きくて、そのへんで事業が進まないと思いますが、それを先に進めるということはできないですか。それをしないと予定しても動かないと思います。

[岩月 森林整備課長]

・森林所有者の確定、特定という問題は、奥山地になると特に難しいと感じております。ただ、その部分だけを前年度に実施するという事は、できるか検討していかないといけないですが、現段階での考え方は、間伐という本体工事と併せて、当年度に実施するという考え方でいります。

[徳地 委員]

・それは分かりましたけど、たぶん、国的にも、そのような事業が推進されてきておりますので、国とも連携をとっていただいて、必要なくても境界確定は絶対に必要になってきますので、よろしくをお願いします。

[森川 委員]

・最近、都会の若者が林業に従事するという映画を見ました。その時に、林業労働は特殊なものすごく感じたのですが、労働力がなければこの整備事業も出来ないし、あんまり機械も入らないみたいですし、労働力の育成についてどのように考えていますか。

[岩月 森林整備課長]

・林業労働力につきましては、いろいろと事業が各種そろってまして、学生を対象に就職する前の事前の研修であったり、森林組合や林業事業体に入ってから1年2年の新しい人を養成する研修など、各種研修に取り組んでいます。

[小見山 会長]

・間伐した後の森林がどうなっているのか、そういうクオリティが大事だと思いますが、その検証・評価をどうしていますか。

[岩月 森林整備課長]

・モニタリング調査を予定しています。モニタリング調査は、間伐の実施年度、間伐実施の前、間伐の後、3年後、5年度に実施するようにしています。その中で、実際に検証した結果をホームページで、県民の皆さんに情報公開・公表していきたいと考えています。

[小見山 会長]

- ・間伐は列状で行うのですか、1本1本選んで行うのですか。

[岩月 森林整備課長]

- ・機械が入らないと思いますので、列状ではないと思います。

●水源林境界明確化促進事業について

[小見山 会長]

- ・先ほどの徳地委員が言われたことにも関わってきますが、ご意見はどうですか。
- ・緊急性ということで昨年度からはじめて、ここでご意見を頂いて一つはできたということで、概ね評価できるということで良いですか。

(意見なしを確認)

●水源林公有林化支援事業について

[小見山 会長]

- ・公有林化の助成ですが、この事業も大事なところだと思います。いかがでしょうか。
- ・事業投資でいくと半分ぐらいしか使っていないという結果になっていますが。

[鈴木 委員]

- ・ニーズが低いという話を伺いましたが、1の事業（環境保全林整備事業）にも関係してはいますが、公有化することはその出発点はそれで良いとして、その後のメンテナンスが当然必要ですよ。今日、会長が言われたクオリティ、質の面からきちっとモニタリングをして管理していかなければならない。人材という点から公有林化することで、かえて不足したり、調整が難しくなることはないですか。全県で今後、広い範囲で、ニーズが高くなっていくということですので、どこでも労働力が満たせるものではないと思いますが、そのあたりはどうですか。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

- ・公有地化する主体は市町村です。市町村が市町村有林にするということは公の責務、責任がかかってきます。保安林にすることは最終目的ではありますが、保安林に指定しますと、森林を無くすことはできません。必ず保安林として、森林として管理していく法的な縛りができます。保安林にしない場合は2分の1助成になりますので、市町村が責任を持って山として管理していくという前提で買っていただくことになります。
- ・市町村が買えば、市町村の経費の中で予算を付けて整備をしていくことになりますので、個人が持って何十年間ほったらかしという状況にはなりにくい。行政の責務で実施できるということで、安全率が高まると考えています。

[鈴木 委員]

- ・市町村はどれも財政が厳しいということで、財政の適正化を進めている時に、どうしても環境とか森林関係はあとあとになっていく。そのあたりのところで、おっしゃるような市町村有

林として管理していけるのか、そのあたりをお聞かせ願います。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・そのあたりは1ページ目にあります環境保全林整備事業は、市町村も使えますので、これを使ってやっていただきたいと思います。

[小見山 会長]

・アフターケアも出来ているということですね。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・制度としてはできています。後は市町村がどう活用するかです。

[徳地 委員]

・公有化されることは結構だと思いますが、h a 当たり879千円は高いように思います。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・土地の評価、立木の評価、近傍の取引事例含めて、公費の支出に耐えられるような評価をして補助金を出しています。実際に森林所有者と交渉して買う値段で補助しているわけではありません。森林所有者がそれより高い値段を言われれば、市町村が負担するということになります。環境税としては適正評価額での補助ということになります。

・近傍取引がない場合は、不動産鑑定士の方に入っていただくことになります

[所 委員]

・予算2000万円に対し、実績は1000万円。40h a の計画で実績が11.30h a。事業効率は、概ね効率が高いということですが、もし、40h a やっていれば4000万円ではなく、2000万円で済んだという理解で良いですか。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・1市町村当たりの補助の限度額1000万円ですので、白川町が、もし40h a を出してきたとしても1000万円までしか補助できません。残りは白川町の負担になります。

●里山林整備事業について

[小見山 会長]

・里山で何をどう整備するのか、これが問題だと思う。ただ、簡単には答えられないし、私も答えられない。好ましい森林の姿、その場その場で違うと思いますし、それに結びつけていく技術を持っていないとできない。

・今、世間で拡大造林に対する批判はありますが、森林・環境税で整備した森林が、拡大造林のような状態にならないように気をつけないといけないし、その時に、里山林や落葉広葉樹林というようなところは、かなり慎重な取り扱いが必要で、県がかなり、それぞれの事業体を指

導していかないといけないと思う。実は非常に難しいところだと思います。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・個別、個別に見ながら実施していく事業ですので、単に間伐をすれば良いというもではありません。

[小見山 会長]

・個別に実施したものが、集まった時にどうかという視点も、考えていかなければならない。

[鈴木 委員]

・里山林の公益的機能は良く使う言葉ですが、この事業を通じた里山林の公益的機能についてどのように考えていますか。

[平井]

・里山林もいろいろありますが、要望が高かったのは、住宅団地として開発された団地には老人ばかりが住み、裏山が荒れ放題、そこからイノシシ、シカが出てくる。住める環境でなくなっている。この里山を何とかしてほしいというニーズが最近、極めて多いのが現状です。今日も午前中、御嵩の里山の要望現場を見に行ってきましたけど、イノシシが掘る石が落ちてくる、窓ガラスを割る、なんとかしてほしい。そういうバッファーズーンの整備とか里山の整備とか、また、今は、竹がどんどん山に侵入している。筍の子をイノシシが掘り土砂が流出する。そういうことを含めて、里山というのは我々が思っているような快適な里山でなくなっています。それを1件1件申請があったところについて、どう整備すれば環境が良くなるか、一つ一つ手作り感のある事業になってしまいますが、そういうやり方をしているのが現状です。

[笠井 委員]

・先ほど、市町村有林の整備の時に鈴木委員から指摘のあったように、これもニーズが多くて、それに対応していくということになると思いますが、工事を実施した後のメンテナンス、せつかく人里に近いところで地域住民の方のニーズが高い。そこで工事した後に、誰がメンテナンスを行うのかを考える、ニーズが高いところを絞りこんでいくという形になるか分かりませんが、やはり、工事をやっている最中ですか、工事が終わった後、住んでいる方の意識が高められて、皆さんで里山を活用していくきっかけにすることに意義があると思うので、そういうところをぜひ強調して取り組んでいただけたらと思います。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・例えばバッファーズーンの場合は、1回整備した後に草刈を何年間、自分たちで実施することを義務付けたりしていますので、住民参加ということを前提として整備させていただいています。また、そういう指導を進めていきたいと思っています。

[鈴木 委員]

・それはすごく大事なことで、市町村でもいろいろな市民活動助成金だとか、いわゆるコミュニティ支援とか、市民活動への支援、その中でも特に中濃、東濃、飛騨地域で里山保全に係るものが多く、裏の竹林が非常に侵食し荒れ放題でなんとかしたいということで炭づくりということなんですけど、地域の市民活動とかコミュニティ活動にうまく接続していくような、地元との協議を必ず事業に組み込んでいくことが、岐阜県のこの事業の意義だと思いますので、県は県、市町村、或いは住民は住民に分けないで、常にこの事業をニーズあった時に連続性を持って取り組んでいただきたいと思います。

[小見山 会長]

・森林整備が終わった後は、どうか心配ですが、なんとか県の指導とかみんなでものを考えるきっかけにさせていただいて、成果を作って見せてほしいと思います。

●環境保全モデル林整備事業について

[小見山 会長]

・これもモデルになったのか質的な検証が必要と思いますね。

[平井 恵み森づくり推進課長]

・平成26年度が調査の年になります。今年度の活動を平成27年度に評価していただくことになります。

[小見山 会長]

・評価項目については、今考えていかないといけないと思う。モデルにあっているかどうか。

[平井 恵み森づくり推進課長]

・効果検証の欄に記載していますように、入り込み者数、維持管理状況を管理主体から報告いただいて、それを検証していくという形になります。

[小見山 会長]

・これも先ほどと同じ問題で、森林をどうするか、どう作るか、一言で言えないと思います。
・いかがですが。後戻りも結構ですので次にいきます。

●木の香る快適な教育施設等整備事業について

[小見山 会長]

・木造化、木質化への助成ですが、どうですか。

[竹中 委員]

・いろいろ話を聞きながら、市民にはなかなか分からない部分があったりしますので、市民の参加も加えながら、地域の方の事業の参加できる窓口があつていいかなと思います。

[小見山 会長]

- ・それは大事なことで、知名度が上がれば欲求度はどんどん上がる。こういうことになると思いますが、PRは大変大事で、活動にきっちり結びついて活動自体もしっかりしたものになる。そういうことをやらないといけない。
- ・いかがでしょうか。炭素換算していますが、炭素量ですね。

[長沼 県産材流通課長]

- ・炭素です。乾燥材比重は0.44、そのうちの炭素含有量は50%。

[小見山 会長]

- ・300トンというと、例えば1年間あたり5トンくらい。普通の森林は5トンより多いくらい。300トンだと60ha分になりますね。
- ・よろしいですか、次にいきます。

●ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業について

[小見山 会長]

- ・これも似た雰囲気ですが、これもマッチングで実施しているのですね。半分半分ですか。

[長沼 県産材流通課長]

- ・基本的に市町村等が導入されたものに2分の1を補助するものです。ただ、机・イスのセットについては、1セット当たりの補助上限が設けられており、平成25年度から10,000円から18,000円に増額しています。

[小見山 会長]

- ・子ども時代からなれてもらうことは大事なこと。
- ・よろしいですか。なければ次にいきます。

●ぎふの木育教材導入支援事業について

[小見山 会長]

- ・おもちゃですね、これはいかがですか
- ・利用者数はものすごく多かった。計画値はちょっと少なかった。素晴らしい。
- ・よろしいですか。次に行きます。
(意見なしを確認)

●木質バイオマス利用施設導入促進事業について

[小見山 会長]

- ・木質ボイラー、ペレットストーブが導入されなかった。

[森川 委員]

・私も関係するところで導入することが問題になったのですが、継続的に供給されるのかという不安があったということが1つ、もう一つはペレットの購入金額が、他の燃料と比べて高いか安いのかよく分からないということがあった。ストーブだけは簡単ですが、その後の使い方が問題になるので、ペレットの供給に関する宣伝、広報をしっかりといただかないとダメだと思います。

[長沼 県産材流通課長]

- ・ペレットを生産している会社等は、県内では揖斐とか高山にあります。
- ・灯油1リットルとペレット2kgで同じ熱量。灯油が1リットル当たり80円とすると、ペレット1kg当たり40円でトントン。今の灯油の価格だとペレットを使った方がお得になるという計算になります。
- ・安定的な燃料の供給もしっかりしています。

[小見山 会長]

- ・不安があるということに対しては。

[長沼 県産材流通課長]

- ・ペレット燃料の供給についてですか。

[森川 委員]

- ・継続性ですね。安定供給についてです。

[小見山 会長]

- ・正直に言ってありますか。

[長沼 県産材流通課長]

- ・あります。

[森川 委員]

- ・安定的に供給が可能ですよという知識を、皆さんに伝えといた方が良いと思います。

[長沼 県産材流通課長]

・県内に6～7ほどの製造施設がありまして、年間3,100トンほど製造しています。こういったものをPRしていきます。

[笠井 委員]

・供給不安ということはあまり知らなかったのですが、それだけですかね。これだけ低調になっている問題点や課題は、どの辺にあると認識されていますか。

[長沼 県産材流通課長]

- ・昨年度少なかった理由は、当初、木質ボイラーが1施設、ペレットストーブを45台で計画していましたが、ボイラー1施設とペレットストーブ40台を計画した市が予算化できなかったこと。2分の1の負担をしなければいけなかったため。
- ・今年度から、市町村以外にも医療法人等公的なものもOKとしまして、現在、7月時点で、ボイラー1、ペレットストーブ59、薪ストーブ7の要望があり、予算額3,500万円に対して、3,000万円という状況ですので、そういった形で広げていきたいと思います。

●県民協働による未利用材の搬出促進事業について

[小見山 会長]

- ・今の話題とちょっと関係しますが。

[長沼 県産材流通課長]

- ・これにつきましては、どちらかというと森林整備とは違ってボランティア的に地域活動として取り組まれるということで、地域で団体を作られています。団体の立ち上げ等も地道に行われており、平成24年度が4町村で5団体、平成25年度は5市町村で8団体、平成26年度が7市町村で12団体。参加人数も徐々に増えつつあります。今後は取り組みを地域で定着させ、広げていきたいと思います。

[小見山 会長]

- ・出したものは、何になるのですか。

[長沼 県産材流通課長]

- ・基本的には薪ストーブ用の薪。

[小見山 会長]

- ・ペレットにはならないのですか。

[長沼 県産材流通課長]

- ・ペレット工場にも持ち込めます。

[瀬上 林政部長]

- ・木の駅プロジェクトなど最近話題になっていますが、恵那ではチップ業者さんが取りに来ています。チップや薪など。

[徳地 委員]

- ・材を巻き上げるものの補助はないのですか。材を買い上げるお金だけですか。

[瀬上 林政部長]

・普通、そういったところでは、1トン当たり3000円でしか買い取ってくれないのですが、3,000円では出材の経費が見合わないので、6,000円で買っていただく。そのうちの半分3,000円を市町村が、その2分の1の1,500円を環境税で補助する仕組みで、未利用材の買い上げに対する補助です。

[徳地 委員]

・融通が利いて、小さい団体でもできるようにしていただくと効率も上がっていくと思います。

[小見山 会長]

・ボランティア的な地域活動なので、営利ベースに結びつくものではないと思います。

●森と木と水の環境教育推進事業について

[小見山 会長]

・概ねよろしいという評価ですが、よろしいですか。(意見なしを確認)

●清流の国ぎふ地域活動支援事業について

[小見山 会長]

・清掃への助成ですかね。いかがですか。

[徳地 委員]

・前回、申請の時に、適切でない申請、良く書けてない部分があったということでしたが、今回はたくさんご指導いただいたのかなと思いました。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・説明会を開催して、適正に記載いただくように指導しました。

●清流の国ぎふ市町村提案事業

[小見山 会長]

・概ね評価できるということですが。

[鈴木 委員]

・市町村からの要望数が前年から1.37倍ということですが、これは市町村の新規事業なのか、あるいは既存事業を巻き替えたものなのか。実態はどうなっていますか。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・既存事業の巻き替えは認めていませんので、新規という形になります。ただ、既存事業が1とすると、それを膨らませて2や3にするという事業は認めています。そういう意味では、若干、昔の事業継続の部分が中に張りこんでいることはあります。

[小見山 会長]

- ・これも最初は細々したものがいっぱい、それを統一化していくというであったと思います。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

- ・市町村が当然行うべき細々とした事業が当初出てきていましたので、この事業にはふさわしくないということで整理しました。

[小見山 会長]

- ・ご意見はよろしいですか。
- ・これで、区分1が終わりました。通して何かありましたら、高木委員はどうですか。

[高木 委員]

- ・コメントというか、最後の市町村は、地域団体と協働していく企業が増えていくことは良いことと思います。

[小見山 会長]

- ・ありがとうございました。

～休憩（5分）～

[小見山 会長]

- ・再開させていただきます。
- ・では、資料1の区分3の事業について、事務局から説明願います。

[説明2（下里農地整備課技術課長補佐、野呂農村振興課総括管理監）]

（資料1により、生きものにぎわうため池再生事業、生きものにぎわう水田再生事業、里地生態系保全支援事業（団体支援・市町村支援）の4事業を説明） ～略～

●生きものにぎわうため池再生事業について

[小見山 会長]

- ・外来種の駆除ですが、2万7千匹も良く取りましたね。

[下里 農地整備課技術課長補佐]

- ・細かい、ブルーギルが一番多かったです。

[小見山 会長]

- ・これは、郷土種というか在来種の保護とセットですよ。もう何が外来種か分からないよう

になっていますけど、郷土種はここにしかいないというもので、それを保護することは大事な
こと。何か所で実施されましたか。

[下里 農地整備課技術課長補佐]

- ・ 5箇所ですが、平成25年度は西濃で2箇所、東濃で3箇所です。

[小見山 会長]

- ・これが岐阜県内に100や200でないと思いますが、そういうことを皆さんに分かってもらってもらうための一つの環境倫理だと思います。そういうことをきちんとやっていないと、1つの池で外来種を駆除しても特に意味がない。そういう意識でやっていただきたい。

[下里 農地整備課技術課長補佐]

- ・意識啓発が大切だと思っています。
- ・5年間の計画を立てていますが、美濃加茂市とかは4年目5年目でも前倒しして、率先して地域で活動していきたいというお話も聞いていますので、ある程度、市によって温度差はありますが、意識の向上にもつながっていると思っています。

●生きものにぎわう水田再生事業について

[小見山 会長]

- ・参加人数が20人の計画に対し、14人ということですが。

[野呂 農村振興課総括管理監]

- ・平成25年度を反省しまして、今年は養老町で実施ですが、60人位来てもらえる予定です。

[鈴木 委員]

- ・中津川市(蛭川)は、もともと水田魚道という環境文化があったところですか。水田魚道は知らない人も多いと思いますし、見たことがない人も多いと思う。この事業に取り組む場所、最適な場所はどういうところとして考えたら良いでしょうか。つまり、この事業は、どこでも良いのではなく、環境文化をもう一回、県内に残して、地域の環境コミュニティを作っていく上でも、そういう要望のある最適な場所を選ぶ必要があると思います。

[野呂 農村振興課総括管理監]

- ・基本的には河川環境研究所や専門の方々にご指導を受けまして、中津川市を選定し事業を実施し、その実施している段階においても、水路と水田を結ぶ段階で、その中にいる魚の種類、溯上とか効果を同時に調査して、どういう場所へそれを設置するのが効果的なのかを統計を取りながら進めている状況です。

[小見山 会長]

- ・優良な事例はありますか。調べておいたほうが良いのでは。

[農村振興課 担当者]

- ・水田魚道を利用する魚種は西濃、岐阜方面の低い地域が多くて、魚種としては8種類。
- ・今年実施した海津の下池は、半分農業半分漁業みたいなところですよ。

[高木 委員]

・ぜひ、効果として、魚種、小生物がどのくらい交流していたのかということも書いていただくと良いと思う。それが本質的なものと思います。

[野呂 農村振興課総括管理監]

- ・ありがとうございます。

●里地生態系保全支援事業（団体支援）について

[高木 委員]

・2団体が60点未満ということですが、せっかく申請をしているので、そういう団体に対し、活動に参加できるような形で改善していただける指導そんなことはされていますか。

[野呂 農村振興課総括管理監]

・評価結果をフィードバックして、どこがダメだったのか先生方の意見を添付して返していますので、改善されると思います。

[小見山 会長]

・事業からすると高邁な取り組みと思いますが、アウトプットがどうなのか。全体のフィロソフィーに対して活動があっているのかチェックしながら取り組んだ方が良いと思う。

●里地生態系保全支援事業（市町村支援）について

[小見山 会長]

- ・ジャンボタニシの駆除ですか。

[笠井 委員]

・各務原市の事業費の説明がありましたが、報告書の43ページに表がありまして、単純に費用対効果を見たときに、各務原市は事業費をがんばって投入したけど2.8トン捕獲したが、輪之内町は事業費200万円で5トン捕獲している。単純に何が違うのかが興味があって、輪之内は結果的にうまい方法で実施されたのではと思う。そのへんのノウハウを取りまとめて事業結果として、皆に知らせていったらと思う。

[野呂 農村振興課総括管理監]

- ・私も不思議に思いまして、聞き取り調査を実施しました。
- ・市町の中でも、ジャンボタニシを集中して発生しているところ狙い打って駆除しているところ、

市民や町民の方と協力して取り組んでいるところ、また場所的に危険な箇所については業者に委託している市町がありましたので、これだけの差が出たと思われます。

[小見山 会長]

- ・ よろしいですか
- ・ 次は区分の4で、2件です。

[説明3 (山口河川課技術管理監)]

(資料1により、河川魚道の機能回復事業、流域協働による効率的な河川清掃事業の2事業を説明) ～略～

●河川魚道の機能回復事業について

[小見山 会長]

- ・ 流路の消耗が激しいということで、半分近くに不具合があり、それを整備していこうということになっています。状況を把握して解決する。新しく建設することとは別事業になります。
- ・ 問題としては、北の方でボランティアが集まらないという悩みもあり、そういうこともあって事業効率はまあまあということですね。

[笠井 委員]

- ・ 事業効果で計画値40%、実績値35%、機能回復率20%、17%は、それぞれ何を指示しているのか教えてください。

[山口 河川課技術管理監]

- ・ この40%というのは、当該事業を始める着手時点で、673箇所のうち4割程度不具合のあるものがあるのではないかと予測し現地調査したところ、672箇所のうち231箇所に悪いところがあったため約35%になりました。不具合箇所のうち20%を手掛けようと思ったが、17%分しかできなかったということです。

[笠井 委員]

- ・ 機能回復率って、やったけど機能が17%分しか回復しなかったということではないですね。

[小見山 会長]

- ・ それはちょっと書き方を工夫していただいて、ずいぶん読みにくいなと感じます。

[徳地 委員]

- ・ 事業費ですが、よそから来るたくさんのお金は、これからもずっとくる感じですか。

[山口 河川課技術管理監]

- ・ いつまで続くかは、はっきりわかりませんが、来年度も残っている箇所について、国には予

算要求しているところです。

●流域協働による効率的な河川清掃事業について

[小見山 会長]

・清掃事業ですが、妥当である、成果が高い、効率が高い、高く評価できるということになっていますが、ご意見はいかがですか。

[鈴木 委員]

・ゴミの回収時期はいつですか。

[山口 河川課技術管理監]

・夏場だと思います。(成果報告書(案)に記載された写真で説明)

[鈴木 委員]

・重要な事業で、岐阜県は河川の上流域であり、特に愛知、三重、岐阜に広域・流域管理という観点からもこの事業は効果があります。岐阜県の河川で清掃しないと潮目に沿って、愛知県の知多半島、常滑のところにも漂流してくる。評価に際して、これだけ取ったということだけでなく、できれば受益を受けている愛知県側からも意見を徴収するなどして、広域的にどういう効果を生んでいるかという観点からも出してみてはと思います。

[小見山 会長]

・他はよろしいですか。
・次は区分2ですね。よろしくお願いします。

[説明4(奥田 自然環境保全課長、市原 環境管理課長)]

(資料1により、流域清掃活動推進事業、イタセンパラ生息域外保全推進事業、野生生物保護管理事業、野生動物総合対策推進事業、上流域と下流域の交流事業、エコツーリズム促進事業、生物多様性に配慮した地域づくり普及推進事業、地域協働水質改善事業、森から生まれる環境価値普及促進事業の9事業を説明) ～略～

●流域清掃活動推進事業について

[小見山 会長]

・河川清掃ですが、この前にもありましたね、統合したらいかがですか。

[山口 河川課技術管理監]

・河川課で実施しているのは、河川管理者が管理するところ。こちらの内容を見るとNPO等ボランティアが手の届くところ、手の出ないところを行政が主体となって実施するという住み分けになっている。

[小見山 会長]

- ・それを一緒にやったらもっと良くなりませんか。そんなことも少し感じました。

●イタセンパラ生息域外保全推進事業について

[小見山 会長]

- ・こちらは、高く評価されていますが、ご意見はいかがですか。
- ・河川環境研究所に指導していただいているということですね。
- ・検討会には一般の方は入っているのですか。

[奥田 自然環境保全課長]

- ・一般の方は入っていません。

[小見山 会長]

- ・そうゆうところを結びつけていくのが、こういう事業だと思いますが。

[奥田 自然環境保全課長]

- ・研究会は環境省の保全事業の一環でもありまして、委員の重複等もございまして、今年度からは国の研究会中心で検討してもらい、県独自の研究会費は予算計上していないところです。

●野生生物保護管理事業（ニホンジカ）

[小見山 会長]

- ・5万頭から1万頭を減らす、1万頭を減らすにいろいろなプロがいますね。罠で獲る人や狩猟で獲る人も。
- ・農産物被害にも及ぶし、林産物被害も自然の森林も、緊急対策としても大事なことだと思います。かなり頑張ってやっていただいている方ですよ。

[奥田 自然環境保全課長]

- ・最終目標としましては、年間1万5千頭は捕獲したい。まだまだ。

[小見山 会長]

- ・岐阜県ではシカが増えかけている、増えている瞬間で、これ以上増えてしまうとコントロール不能になってしまう。だから5万頭のうち1万頭、1万5千頭位獲っていただかないと、手遅れになってしまう。他県では手遅れになっているところも。着々と実施していただいていると思います。

●野生生物保護管理事業（捕獲オリ等の購入）について

[小見山 会長]

- ・捕獲オリは数が足りているという説明でしたが。

[奥田 自然環境保全課長]

・数が足りているというご意見がある反面、来年度以降も県の補助を要望していることもあまして、実績が上がらなかったのは、この事業のPRが足りなかったかなと思っていたが、必ずしもそうでもなかった。

[小見山 会長]

・獲った後、どうするのですか。

[奥田 自然環境保全課長]

・処分して焼却します。

[小見山 会長]

・民間の人が檻を借りて獲る場合もあると思いますが。

[奥田 自然環境保全課長]

・民間の場合ですと、まず許可。被害防除計画を市町村や団体が作りまして、それに基づいて実施する場合は、鳥獣保護法の許可になります。

・檻は市町村に貸出して、また市町村が貸し出します。

●野生生物保護管理事業（捕獲の担い手確保）について

[小見山 会長]

・これも大事だと思います。概ね評価できるということですが。ご意見はどうですか。

[徳地 委員]

・これは、市町村の職員だけが対象ですか。

[奥田 自然環境保全課長]

・はい。3年は公務として有害鳥獣の事業に携わっている、そういう条件のもとで市町村に対し補助しています。個人の方については、狩猟は公的な意味もありますが、個人の趣味的な要素もありあますので、個人の方の取得に対する助成まではしていません。

[小見山 会長]

・実績は6人増えていますが、市町村としては2箇所しか増えていないということですね。

●野生動物総合対策推進事業について

[小見山 会長]

・これは、専門的な知識が密度管理にはいるということですね。かなり難しい手法とか人材育成とか狩猟にも関わってくる人材育成ですが、いかがですか。

[笠井 委員]

・綿密に森部先生の指導が行われていると思いますが、その研究成果を広くPRしていただきたいと思います。

[小見山 会長]

・人材育成はすごく大切ですから、ぜひ、センターで学んだ人は県に持ち帰ることも大事。

●上流域と下流域の交流事業について

[小見山 会長]

・ツアーですが大好評。一つだけ気になっていませんか、全部概ね妥当であって、自己評価は高く評価できるになっている。遠慮しすぎのところがあるのではと思います。

[奥田 自然環境保全課]

・参加人数は、計画360人以上に対し414人。

[小見山 会長]

・それは成果が高いでいいじゃないですか。他は計画と実績が似たりよったりなので、概ね妥当で良いと思いますが。

[奥田 自然環境保全課]

・このツアーをきっかけに、自然への関心が高まった、とても高まった方が91%。環境保全活動への参加意識が高まった、とても高まったが87%。これはツアーそのものの評価ですが、それをどうやって一つ一つ活動につなげていくかが課題ではあります。

[小見山 会長]

・次も似たような事業ですね。

●エコツーリズム促進事業について

[小見山 会長]

・みんなの目もこえてくるから、エコツアーも実はなかなか来てくれなくなる。

[徳地 委員]

・なかなか来てくれなくなる方とか、ボランティアの方とかの場合、いろいろと問題はあると思いますが、担い手の問題として、ツアーに参加される方は、より有力な方と思いますが、情報の管理は難しいと思いますが、こういうことに参加された方のリストみたいなものをきちんと大事にされて、ボランティアにつなげていくとか、そういう活動をされると、絶対にいろいろつながっていくと思います。

[奥田 自然環境保全課]

・おっしゃるとおりで、現地での保全活動を主としているNPOさん、最低2つくらい可能性がありまして、そこと、あくまで自主的に情報提供をもらうことで、そのようなつながり確保してやっていただくように仕向けています。強制するわけにはいきませんし、興味があったNPOさんと、定期的に情報提供いただけるような将来の進め方も検討していきたいと思っています。

●生物多様性に配慮した地域づくり普及推進事業について

[小見山 会長]

・地域セミナーの開催ということですが、これは全部最高ランクになっています。大変よくやっていたらと思います。ご意見はいかがですか。

[高木 委員]

・ここへの参加者からいろいろな活動へのアプローチとかきっかけづくりという、そういう何かセミナーで工夫されているのですか。

[奥田 自然環境保全課長]

・主に活動の実践者に発表いただいております。活動の広がりを期待したいと思っています。

●地域協働水質改善事業について

[小見山 会長]

・もともと濁っているということはあるのでしょうか。砂漠に緑があれば砂漠でなくなる。それと同じようなことでしょうか。

[市原 環境管理課長]

・確かに、自然の状態がこれかと言われると。大樽川はもともと長良川から流れておりまして、もともとはきれいな川で、かなり昔に閉じられて閉水になった。昔は地下水が多くて、自然湧出している地下水のおかげで年配の方からすると、そこで泳いだという状況があった中で、だんだん地下水も少なくなって、こういう状態になったところもあります。客観的に見た目が悪いし、全く下が見えないという状態を少しでも改善したいということで取り組んでいただいている。

[小見山 会長]

・自己評価は大変高いですが、よろしいですか。

●森から生まれる環境価値普及促進事業について

[小見山 会長]

・カーボンオフセットを行う団体への支援ということですが。

[高木 委員]

・イベント来場者数が1万9千人ですが、この方々全員がJ-VERを理解されたということなのか、それとも単純にイベントに参加された方の数なのか。どっちですか。

[市原 環境管理課長]

・9箇所、委託事業でブースを設けてPRしました。J-VERのイベントに特化したものもありますし、普通の産業展みたいなものもあります。J-VERに特化したイベントでは、来られた方全員にPRできたと、また、産業展のようなイベントでは、中でブースを訪れた方を累計しています。

[小見山 会長]

・よろしいですか。

[小見山 会長]

・これで一つ一つの事業に対するご意見をいただきました。総括は、じっくり考えないと総括できませんけども、一つだけ大変気になっていることがあります。最近実習とかで山に行くと木が枯れています。下大須のダムの上や高山の清見のあたりも枯れています。水源に近いところがあのように枯れている。おそらくマイマイガかと思いますが、マイマイガは10年に一度位大発生するらしく、飛騨地方に発生している。ほっとくとウイルスで死ぬという人もいますが、続けば森自体がなくなってしまう。来年になったら消えることが確定しているのであればそれはそれで良いですが。先ほどシカが食べる森林・農作物で、それでシカを獲るということがあったと思いますが、そういうことを考えなくていいのか。たぶん林政の方でも考えていると思いますが、森林環境税として、まさに予算の身動きができない面が、こういうもので解決できるのであればなにかしら手を考えても良いと思う。そのくらいひどい被害がでている。

[瀬上 林政部長]

・こないだ議会でも実は、問題になりまして、特にマイマイガのせいで森林が枯れている。森林そのものを手当しなければいけない。先生の言われるように神岡のあたりは1山すべて枯れてしまっている。普通は、広葉樹の葉を食べるが針葉樹は食べなかった。最近は、広葉樹の葉を食べてしまい針葉樹の一部スギとかカラマツの葉も食べている。ただ問題なのは、それで次の年に木そのものが枯れるかということ、今のところ枯れたという報告はありません。

[小見山 会長]

・2回分食べる、つまり冬芽まで食べられると木は枯れます。今はどういう状態ですか。

[瀬上 林政部長]

・今のところ、翌年の芽も生えており、木が枯れていないということですが、今、言われたように何もしなくても良いかということですが、森林研究所が千葉大学と一緒に合成フェロモンをまいて交尾を阻害するような研究をしようと思っているところです。

[小見山 会長]

・物理的にたまごを取っていたら防げるような気がします、だから処理は割合力づくでできる範囲と思いますので。過去においても大発生していて、それが3年で収まっているところですが、そのままほっといていいのか。水源林にも関わってきていると思うし、せっかくある森林環境税の利用を検討された方が良いと思う。

[瀬上 林政部長]

・おっしゃるとおり、具体的な対策ができるようになれば、森林環境税を使っていくことも必要だと思っています。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・専門家が研究所にいますが、毛虫が死んで糸を垂らして揺れていると、ウイルスの大発生の前兆らしいです。飛騨の方で少しずつ始まっており、来年度は大発生がないのではと研究所の研究員は考えているようです。

[小見山 会長]

・10年後もまた出るわけですので、検討は無駄にはならないと思います。

[小見山 会長]

・私の方から以上ですが、報告事項があるようです。

[平井 恵みの森づくり推進課長]

・資料3により進捗状況を報告 ～ 略 ～

[小見山 会長]

・今の報告に対してどうですか、良いですか。
・これで終わりたいと思いますがどうでしょうか。

[鈴木 委員]

・この事業は5年間で評価していくことになりますが、その後について、そろそろ検討しておいたほうが良いではないかと。先ほどPRの話が出ていましたが、特にこの事業については、県民の関心がずいぶん高まりつつありますが、今日の話にあったように併せて、関心を持って参加をしてもらおう県民協働というスタンスにシフトしてきた。今後は、税という形以外に、その公益的な事業を推進していくことがふさわしいものについては、続けられる財源を考えていかななくてはいけない。笠井委員がお見えでもありますが、なんとか銀行を活かせないかなと、最近、県民の貯蓄を投資に向けていく、そして環境投資に財産を有効活用していくクラウドファンディング事業がありまして、それについて研究を進めていますが、今回のメンバーの中にも社会科学系の専門家の方もお見えになりますので、税で始まった事業について、自然科学の

観点からきちんと評価しつつ、改めてこの事業の中で県民の心ざしをうまく活かし、参加して、活かしていけるような事業については、新しい財源の調達の道を検討していくことそろそろ考えてもどうかと思う。その点で、最近、岐阜県では他県から関心をもたれ、クラウドファンディングという事業を飛騨方面で熱心に、産業化というか、事業を起こすという形で活かしている。環境保全、森林保全という観点も含めて事業を実施している。そういう検討してみたらどうかと思います。ご協力したいと思います。

[小見山 会長]

・ご協力ありがとうございました。

[司会]

長時間にわたりまして熱心なご議論をいただきましてありがとうございました。
最後に、環境生活部長からお礼を申し上げます。

[宗宮 環境生活部長]

(あいさつ) ～略～

[司会]

以上をもちまして、本日の会議は全て終了でございます。ありがとうございました。

なお、本日の事業評価に係る意見結果につきましては、冒頭に小見山会長がおっしゃったように、後日、事務局から委員各位へ確認・了解をとったうえ、県民の皆様へ公表してまいりたいと思います。

また、本日、議論いただきました議事録につきましても、後日、まとめて皆様にお送りするとともに、県のホームページに掲載したいと思いますのでよろしくお願いします。

次回は11月頃の開催を予定しておりますが、その内容といたしましては、26年度事業の進捗状況をご報告するとともに、27年度事業計画について、ご意見を賜りたく存じます。

開催日につきましては、追って事務局から調整させていただきますので、よろしくお願いします。

長時間にわたり、ありがとうございました。